



「こどもまん中社会」の保育を考える



理事 白根 郁代

令和5年度の総会にて、会長推薦理事として理事を務めさせていただくことになりました。よろしくお願ひ申し上げます。

保育事業を取り巻く環境は、目まぐるしく変化しています。令和5年4月、こども政策の司令塔と言える『こども家庭庁』が発足しました。

私たちは、こども家庭庁の掲げる『こどもまんなか社会』の実現に向けて何が出来るでしょうか。秋田喜代美先生は、「つながりのある保育」のことを言われました。

まずは、安心を基軸として魅力的なモノや世界とつながること、現場で保育者、家庭、子ども、時間、場をどうつなげていくか、子どもの声を聞き、受け止めて、それをどう日常の保育の中に活かすかしっかり考えて行きたいと思ひます。

当園は、令和6年度春より40数年経った園舎の改築が始まります。令和7年度にはリニューアルオープンする予定です。職員たちと新しい園舎への夢を広げています。

当園は、緑の多い郊外にあり、園の周りは公園がいっぱいで子育てにも最高の環境と自負してききました。

しかし、近年は待機児問題による保育園の増設が進んで保育園が供給過多になり、また、加速する少子化問題などで定員割れが生じて運営に問題が出てきました。この状況をどう乗り越えるか、思案している時にこども家庭庁から『こども誰でも通園制度』の本格実施を見据え、検討会が開かれることになりました。

元はといへば、保育所の空き部屋を活用した事業ですが、年内中に取りまとめが予定されています。

この制度については、全ての家庭を対象とし、理由を問わず誰でも利用でき、育児負担や孤独感を解消できること、また、虐待、不適切な子育てをなくし、子育てが“楽しいね！”と親支援ができること、これは保育園の社会的役割として大切なことです。

この制度を取り入れるために考えさせられる問題は、保育士不足や現場のゆとりのなさなどがあり、受入れ体制などについて職員と十分に話し合う必要があります。

今まで以上に楽しい保育園作りをして、これからの時代を豊かに生きていくために、子どもも保護者も職員も輝いて欲しいと願っています。

最後に、私は、東京都民間保育園協会の理事として、保育制度問題の検討や予算要望をし、新しい時代の子どもたちが未来に向かってたくましく育ってくれることを願ひ、こどもまんなか社会の実現を目指していききたいと思ひます。

12月、街にはイルミネーションが輝きクリスマスソングが流れて新しい年を迎える準備が始まりました。

新しい時代の子どもたちが未来に向かってたくましく育ってくれることを願ひこどもまんなか社会を実現していきましょう。